



平成 19 年 11 月 9 日

各 位

会 社 名 中央化学株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 渡 辺 信
 (J A S D A Q ・ コード 7 8 9 5)
 問 合 せ 先
 役 職 ・ 氏 名 常務取締役管理本部長 永 田 修
 兼 経 理 部 長
 電 話 0 4 8 - 5 4 0 - 2 6 2 4

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成 19 年 8 月 20 日付「平成 19 年 12 月期 中間決算短信」にて公表いたしました平成 19 年 12 月期(平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日)の通期業績予想(連結・個別)を下記の通り修正いたしますので、お知らせいたします。

記

1.平成 19 年 12 月期連結業績予想数値の修正(平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 19 年 8 月 20 日発表)	93,000	500	900	5,100
今 回 修 正 予 想 (B)	88,600	2,500	2,900	6,500
増 減 額 (B - A)	4,400	2,000	2,000	1,400
増 減 率	4.7%	-	-	-
前 期 実 績	88,449	894	800	109

2.平成 19 年 12 月期個別業績予想数値の修正(平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 19 年 8 月 20 日発表)	74,000	1,000	1,100	5,000
今 回 修 正 予 想 (B)	70,600	2,500	2,600	7,900
増 減 額 (B - A)	3,400	1,500	1,500	2,900
増 減 率	4.6%	-	-	-
前 期 実 績	70,261	428	510	86

3.修正の理由

(1) 個別

(営業利益・経常利益)

上半期からの「生産効率アップに向けた生産設備等のリニューアル投資」の継続と並行して、第 3 四半期からは、閉鎖工場等からの生産移管も順次進めております。これに関連し、品質管理上、この生産移管時に異常発生の危険性が最も高くなるため、移管における品質維持と安全確保を最重要課題として取り組んでおりますが、この品質維持と安全確保の重視に伴ない、生産量減少や材料歩留悪化などの生産性低下と、生産量減少をカバーする為の横持物流の増加といった物流効率悪化が生じております。

当初、これら生産性低下・物流効率悪化による収益悪化の影響は、閉鎖工場からの生産移

管完了を予定している当期12月まで続き影響額は1億円ずつ程度と想定しておりましたが、移管先工場における当該受入れのほか、投資設備の検収や新製品生産などが重複し、より品質維持と安全確保に慎重を期している状況などから、影響時期は変わらないものの、影響額は、生産性低下・物流効率悪化それぞれ約3億円程度ずつ拡大すると予想されます。

一方、第3四半期から、原材料価格値上がり分の吸収に向け、製品の軽量化や、陥没価格の是正・製品価格への一部転嫁等の活動を本格化しております。

軽量化製品や価格転嫁については、代理店と協調しつつ末端市場への浸透具合を観測しながら推進していますが、直近10月度における市場動向と製品値上げの実現状況・割合を勘案致しますと、一時的に原油価格が軟調に推移したことなどが影響し当初予想しておりました製品値上げの決着時期について2～3ヵ月程度遅れることが判明致しました。これらによる収益影響額は、営業利益ベースで約9億円程度に達すると予想されます。

以上の状況から、営業利益・経常利益につきましては、従来の通期予想数値に対して15億円程度下回ると予想されます。

なお、中国子会社の業績について、売上増加は順調であるものの、国内同様、原材料価格の高騰が大きく影響し、為替差益を除外した実態収益が悪化している状況から、中国子会社に対する出資金の評価損繰入（特別損失）について、15億円の積増しを見込んでおります。（連結上は、中国子会社の業績が合算されるため当該損失繰入は消去されます。）

以上の状況から、個別の通期業績は、売上高が706億円、営業利益が25億円の損失、経常利益が26億円の損失、当期利益は79億円の損失になると予想されます。

（2）連結

（イ）国内

国内業績の差異は、そのほとんどが個別業績で発生しており、個別業績の差異理由は前項「（1）個別」の通りであります。

（ロ）北米

米国子会社の業績は、売上高が前年比約5%増と堅調に推移しておりますが、国内同様、原材料価格の高騰と物流費の増加等が響き、営業利益は従来予想の4億円を3億円程度下回ると予想されます。

（ハ）アジア

中国子会社の業績は、売上が依然2桁台の高い伸びを示しているものの、上記個別の差異理由にも記載しました通り、原材料の高騰などから、営業利益が悪化しており、通期の営業利益は、従来予想の1億円の損失から2億円程度拡大し、3億円の損失となる見込みです。

以上の状況から、連結での通期業績は、売上高が886億円、営業利益が25億円の損失、経常利益が29億円の損失、当期利益は65億円の損失になると予想されます。

上記業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、天候不順や為替変動等の様々な要因により異なる場合があります。

以 上